コラム：インディアス総合文書館

セビーリャ市の空港を出ると，僕はタクシーに乗り，インターネットであらかじめ仮契約しておいたマカレナ地区のアパートに向かった．2009年6月のことだ．初夏のセビーリャの空気はからっとしていて，気持ちのよい青々とした空が広がっていた．アパートの印象的な青と白のタイル張りの外壁は，メキシコ市で6年暮らしたあと，パリで1年間の留学生活を送り，それから初めてスペインにやってきた僕の目には新鮮に映った．このアパートから毎朝30分ほど歩いて，セビーリャの街の中心にあるインディアス総合文書館に，ほぼ一か月の間通いつづけた．

この文書館の歴史は古く，その誕生は200年以上前にさかのぼる．

1785年，国王カルロス3世は，「インディアス」の名でよばれるスペインの海外領土に関する資料を1か所に集めて保管するよう命じた．マドリードから150 kmほど北西に位置するシマンカス城，そしてスペイン南部のカディス市やセビーリャ市の諸機関にあったインディアス関連の行政資料や裁判資料などを，すべて一つの場所に集めるよう指示したのだ．

資料を保管する場所としては，セビーリャ市のカサ・デ・ラ・ロンハ（商取引所の建物）が選ばれた．この建物は，フェリペ2世によって16世紀末に建設され，1717年までは，インディアスとのすべての貿易を統括する政庁であった通商院が置かれた場所だ．ここに，現在の米国南部，メキシコ，カリブ海地域，グアテマラやホンジュラスなどの中米諸国，そしてペルー，ボリビア，アルゼンチンなどの南米の国々，さらには東南アジアのフィリピンをもカバーする，インディアスの資料が集められたのだ．

現在，この文書館には総計8000万ページに及ぶ膨大な量の資料が，一列に並べるなら8 kmもの長さになるという数千個の木棚に収められている．

この文書館の閲覧室で，1枚ずつ頁をめくり，朝からお昼すぎまで資料を読んでいると，大海に一艘の小舟を浮かべ，魚釣りをしているような気分になってくる．

資料を読むのに疲れたら，文書館の裏手のトゥリウンフォ広場に足を運ぶことにしている．文書館から一歩外に出ると，真っ青な空とまぶしい陽の光，観光客や街の人々が目に飛び込んでくる．何だか現実世界に引き戻されたような気持ちになる．そして広場のベンチで小一時間ほど昼寝をしてからまた，資料の大海に浸りに，文書館へと戻っていく．

図1　インディアス総合文書館．2009年7月11日の昼さがり

［小原　正］

ラテンアメリカ文化事典

令和3年1月30日　発　行

編　　者　ラテンアメリカ文化事典編集委員会

発行者　池　田　和　博

発行所　丸善出版株式会社
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町二丁目17番
編集：電話(03)3512-3265／FAX(03)3512-3272
営業：電話(03)3512-3256／FAX(03)3512-3270
https://www.maruzen-publishing.co.jp

© Editorial Committee on Encyclopedia of Latin American Culture, 2021

組版印刷・株式会社 日本制作センター／製本・株式会社 松岳社

ISBN 978-4-621-30585-0　C 0522　　Printed in Japan

JCOPY 〈(一社)出版者著作権管理機構 委託出版物〉
本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています．複写される場合は，そのつど事前に，(一社)出版者著作権管理機構(電話03-5244-5088，FAX03-5244-5089，e-mail：info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください．